

# 美川っ子

R1.11.22日 文責 岡田憲明

## 小中合同音楽発表会

### 未来予想図

令和元年11月5日(火)に、美川小学校体育館において、小中合同音楽発表会が行われました。

翌日に浜田市小中連合音楽祭を控えて、心の準備を進めるという意味合いが大きいのだと思います。今年は何と、美川幼稚園の皆さんも合同音楽発表会に参加しました。美川小学校の体育館に、幼稚園、小学校、中学校という校種の違う3つの団体が集まったこととなります。実に、美川地区らしいと思います。運動会も合同で行っています。昨年度から、感じていることですが、幼稚園の子どもにとっては、小学生が、(すべての子どもが美川小学校に入学するわけではありませんが・・・)、小学生にとっては、中学生が、「こんな風になりたい」というお手本になっていると思います。「こんな感じになるんだ」という未来予想図が目の前にあるわけですから、幼稚園生、小学生にとっては進学の気持ちの準備のためにも、



とてもよいことだと思えます。

当日はまず、本校3、4年生の合唱・合奏の発表でした。小中連合音楽祭で発表する「元気 勇気 ちから」の合唱と、「ベストヒットメドレー2018」の合奏でした。子どもたちは自信をもって合唱、合奏していました。幼稚園の子どもたちも、自分たちの知っている曲が含まれていることもあり、ノリノリで聞いていました。

次に四中のみなさんの発表です。全校生徒による合唱と、音楽部による吹奏楽でした。

中学生の力強い歌声に子どもたちは引き込まれ、集中して聞き入っていました。音楽部の合奏も、素敵な音色でした。本校の卒業生の顔も見え、成長が感じ



られました。大人になっていく子どもたちの姿を見ることができるともうれしいことです。幼小中合同で行うさまざまな行事。一つ一つが子どもたちの心の栄養になっていることを感じます。

## そして続いて

### 小中連合音楽祭

令和元年11月6日(水)、第14回浜田市小中連合音楽祭が開催されました。前述したように、前日に行われた音楽発表会で演奏した曲を発表しました。



美川小学校の子どもたちにとっては、大きな舞台の上で、多くの観客の前で発表できるというのはとてもよい経験となります。小学校の体育館で演奏するのは大きな違いです。そういった場所で、本来の力を発揮することができて初めて、実力として力がついたといえるのだと思います。本校は、小規模校であるがゆえに、そういったところが弱みとなりがちです。少し心配しながら、子どもたちの様子を見ていました。



まず「元気 勇気 ちから」の合唱です。子どもたちは、大きく口を開けて、リズムに乗って体を揺らしている子どももいます。自信をもって歌っているのがよくわかります。人数では20名あまりですが、決して大規模校のボリュームに負けていなかったと思います。「ベストヒットメドレー2018」も同様です。植田教頭先生の指揮をしっかり見て、一生懸命の演奏です。途中の「YMCA, USA」の声もしっかり聞こえました。

口を開き、目を開き、そして、心もしっかりと開いて演奏に没頭している子どもたち。とても、頼もしく思えました。

## 心を一つに

### 学習発表会

令和元年11月16日(土)に、学習発表会を開催しました。寒さが心配されましたが、前日よりずっと暖かい朝となりました。

朝のうちは、大きなヒーターも稼働させていましたが、途中からはそれも必要がないほどのよい天候に恵まれました。よい環境の中で発表会を開くことができ、うれしく思いました。

学習発表会の練習から、子どもたちのようすを見てきて、今年度





特に感じたことの一つに「協力し合う」子どもたちの姿がたくさん見られたことがあります。

自分たちでアイデアを出し合う、自分たちで反省点を出し合う、協力して直す、そして創り上げる姿があったということです。「先生に言われるから、大人に言われるから、それに対して迷いももたず従う」姿は、これからの世の中を生きる子どもたちにはふさわしくありません。

正解のない課題に対して、頭を寄せ合い、「あーでもない、こーでもない」と話し合うことを通して、自分たちの正解を導き出していくことが求められているのだと思います。子どもたちの中にこそ、正解が潜んでいるのです。これからの世の中を創り上げていくのは子どもたちなのですから。

自分たちで創り上げることは、きっと大変なことだと思います。決められた正解があるわけではないのですから。しかし、子どもたちは楽しそうでした。自分たちで創り上げることに喜びを感じているように見えました。

また、心の叫びでもあるようにも見えました。心が揺さぶられ、感動が沸き起こってきました。演技がいいとか、声がいいとか、姿・形がいいといったことではない「美しさ」を私は感じました。嘘、偽りのない子どもたちの心の力がこもっていると思いました。失敗を通して学び、協力して創りなおす過程の中に、本来の自分を見つけ出すことができる大切な意味があるのだと、改めて感じさせられた「学習発表会」となりました。

その後のPTA主催のバザーの運営、またご協力ありがとうございました。たんぽぽ学級からの「バスボム」も、ほぼ売り切れしました。心よりお礼申し上げます。早朝から、終了まで子どもたちを応援して下さった皆様、ほんとうにありがとうございました。

## 避難訓練（地震対応）

日本は地震大国です。記憶に新しいところでは、東日本大震災がありますが、1995年には阪神淡路大震災が起こっています。長い間、ずっと地震による災害と戦ってきたといえるでしょう。もちろん島根県、また、浜田市も決して例外といえるわけではありません。そこで学校で行われる避難訓練は、火災を想定した避難訓練と、地震を想定した避難訓練を行っています。

今年度は、11月19日（火）に地震対応の避難訓練を行いました。最初に全校で、DVDを視聴し、地震の恐ろしさ、発生した時の身の守り方、地震が起こるメカニズムなどを学習しました。

そのDVDは少し古い資料だったので、中に出てきている事例の中心は、「阪神淡路大震災」のものでした。その中で、津波によ



る被害の事例も出てきました。私は、それを視聴しながら、25年前にも津波の恐ろしさについては十分認識されていて、その対策についても述べられていたことに驚きました。日本人は先人の知恵として津波の恐ろしさや対策については、十分認識していたのだということを改めて突き付けられる形となったからです。

現在は、1000年に1度の災害といわれるような災害が、毎年やってくる時代です。起きることを想像することもできないようなことが、毎年のように起きるようになってきていることを改めて認識することが必要であると感じました。

今回の避難訓練では、普段避難経路として使わない経路によって避難しました。普段使うことができる通り道も、建物が壊れるなどして使うことができなくなっている可能性があるからです。

もしも現実の避難であれば、そういったときには、自分でしっかり考えて避難するための経路を見つけ出さなければなりません。まず、「自分でしっかり考えることが大切である」ことを避難訓練の最後の話の中で触れました。

「津波でんでんこ」という言葉を、東日本大震災の後に知りました。自分が「最善を考えて、それぞれが生き延びるための術」を考えること。家族の心配をして、現場に戻ったりしない。「それぞれで生き延びて再会を待とう」ということのようにです。

子どもたちには「自分で考え」それでも迷ったら「話し合うこと」が大切であるということをお話しました。

それは、避難訓練の時に考えたり、行動したりしたらできるというものではありません。普段の生活、学習の中から、自分で考える、迷ったら相談するという癖をつけておくことが大切です。

## 12月の主な行事

- 3日（火）劇団あしぶえ講演観劇会
- 4日（水）スタンプラリー（昼休み）
- 5日（木）全校朝礼、外国語活動（支援員）  
新掃除スタート、三・四中校区合同学習（三中）
- 6日（金）マラソン記録会③、委員会⑥
- 9日（月）人権集会⑤、PTA運営委員会
- 10日（火）島根県学力調査
- 11日（水）個人懇談、SC訪問日
- 12日（木）個人懇談、外国語活動（ALT）
- 13日（金）クラブ⑥
- 15日（日）学校保健会講演会（福祉センター）
- 16日（月）安全点検、PTA朝の街頭指導
- 19日（木）小中しめなわ作り交流会  
（四中体育館）
- 23日（月）校外班会④
- 24日（火）ラブック号、大掃除
- 25日（水）終業式・給食終了



○12月を目前に控え、いよいよ押し迫ってきた感があります。令和元年を閉め、新しい年を向ける準備をするのも、12月です。

○12月には1学期に実施できなかった「マラソン記録会」が予定されています。寒い季節を迎えてインフルエンザ等も気にかかるところです。

○生活リズムを整えること、手洗い・うがい等に気をつけて病気をよせつけないことで「マラソン記録会」への準備を進めてほしいと思います。そのほかにも大切な行事がたくさんです。しっかりと体調を整え、12月を乗り切ってほしいと思います。

